

(4) 親交を結んだ友たち

中学時代の加藤には友人との親交はほとんどなかったが、一高時代の加藤は、加藤自身を決定するほどに大事な友人との出会いがあった。中村真一郎と福永武彦は終生の親友となった。大野晋と小山弘志はのちに大学者になるが、加藤の日本文学史研究のうえで強力な精神的支援を与えた。作家小島信夫や鷗外研究で知られる長谷川泉も、文芸部委員を務めるなかで知己を得た。原子物理学の垣花秀武からは、量子力学、およびトマス・アクィナスをはじめカトリックの論理を学んだ。こうして加藤は岩下壮一の著作を読むことになる。中西哲吉は資質が加藤と似ており、その才能を高く評価した後輩である。

信濃追分で夏季休暇を過ごした加藤は、追分を舞台にさまざまな人と出会う。中村真一郎と出会うのも追分である。立原道造と識りあい、立原を介して堀辰雄とも知り合う。のちに加藤は堀辰雄の結核を診ることもなり、夫人の多恵子とは終生の親交を続けた。